



PTA新聞

ふくおかけん

県P連ホームページアドレス <http://www.fukuokakenpta.gr.jp> 県P連電子メールアドレス info@fukuokakenpta.gr.jp

発行所／
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
福岡県吉塚合同庁舎5階
福岡県PTA連合会
TEL092-643-7766 FAX092-643-7767
編集発行人／松尾 和昭

「新」家庭教育宣言実践報告会

福岡県PTA連合会（県P）の「新」家庭教育宣言実践報告会は、新型コロナウイルス感染症による福岡県緊急事態宣言が出されているときとあって、3月19日から21日までYouTubeでリモート配信されました。報告会に参加できない保護者も、県Pのホームページにアクセスして見ることができるよう工夫されました。

YouTubeで視聴できました

「新」家庭教育宣言は家庭における親子で相談しながら努力目標を宣言し、その実践報告は福岡県立図書館を会場に収録が行われ▼宇美町立井野小学校PTAで取り組むもので平成17年度、12校でスタート。16年が「自己ギネスに挑戦！」

目標掲げて挑戦

弁当の日設け食育

井野小学校PTA



水巻中学校PTA



福岡空港にほど近い15学級の小学校。PTAは「保護者の皆さんには何か一つ手伝っていただく」という一人一役サポーター制度を設けている。前年度からの「ノーテレビ・ノーゲームデー」などの取り組みに加え、縄跳びや鉄棒、パソコンなど子どもたちが好きな目標を決め、家庭で話し合い挑戦する「自己ギネスに挑戦！」を実施。最後は、学校の昇降口の柱に「自己最高記録」などを紙製のメダルに書いて「自己ギネス」はいつか、自己肯定感・達成感などの成果の見える化を図った。

人口密度は北九州市より高い町だが、学校の生徒数は、ここ20年で半減した。令和3年度からはPTAサポート制度の導入を予定。食育アンケートの結果、栄養バランスの知識に乏しいということがわかり、弁当の日を設けた。初歩的な作りから「自分で買い物をし家族と自分の弁当を2つ以上作る」まで、だれでもできるように5段階に分けてレベルでの取り組み。2年目は、食育についてのミニミニエッセイを募集し、「食育通信」に掲載し、食育に対する理解を深めた。

リモートで知る…学べます

役員研修会も配信

スマホ問題、PTA運営も

福岡県PTA連合会（県P）の役員研修会は、コロナ禍で4月26日から5月9日まで、YouTubeでリモート配信されます。6つの分科会に分けての「学び」のオンライン提供。PTAのリーダーとしての役割・心構えからケータイ・スマホ問題への対応の仕方まで幅広い内容。発表者それぞれのアイデアが盛り込まれ録画撮影が行われました。各分科会のテーマは次の通りです。左下のQRコードから県Pのホームページにアクセスしてご覧ください。



関わり〜と、それぞれカメラに向かって報告。それを編集して配信されました。これとは別に桂川町立桂川中学校PTAの取り組みが報告書に紹介されました。福岡県教育庁の近藤真紀・主幹社会教育主事は「日本の若者の自分への満足感とは自分が社会などの役に立っているかに強く影響されている。自己肯定感の向上が大切。大人は、未来に誇れる『今』を創る責任がある。これからも学び合いを共に続けていきましよう」と締めくくりました。2月11日、福岡市博多区のパピヨン24ガスホールで予定されていたものの、コロナ感染症予防もあって急きょリモートでの開催。松尾和昭・県P会長は「発表があった取り組みが家庭教育を見つめ直す良い機会になりますように。こうした取り組みはデジタルとアナログのいいところを融合させていくことを検討したい」と話しています。県Pのアンケートによると総視聴数は1376でした。

全国賞に福成さん(京)、溝上さん(筑)



福成桃佳さん



溝上亜子さん

いじめ防止標語コンテスト

とあって作りました。もし友だちとけんかになった時も、むしをしなくて、心がポカポカになる言葉をえらんでつかっていきたいと思います。ことばがむずかしい時は、えがおを見せたりうなずいたりしたいと思います」と感想。

溝上さんは「学校で自分からされたり、言われたりして嫌なことは、人にはしない、言わない」というスローガンを見る度に自分の生活を振り返るので、それを標語にしました。一人でも多くの人の心を動かすことがいじめをなくすためにできることだと考えています」と話しています。

その他の県P管内の入賞者は次の通りです。（学年は3月現在、敬称略）

＜小学生の部 優秀賞＞糸島市立南風小学校6年・波多江安美▽同2年・津留崎幹吉

＜同PTA推薦賞＞苅田町立苅田小学校3年・築瀬幹太▽糸島市立南風小学校6年・堅山陽生

＜中学生の部 優秀賞＞八女市立立花中学校3年・野中清花▽篠栗町立篠栗中学校2年・福井雪乃

＜同PTA推薦賞＞太宰府市立太宰府中学校2年・野田美保子▽八女市立筑南中学校3年・松崎胡春

福岡さんは「友だちや家づくに知らんふりをされた時が、わるいと言われた時よりも、もっともっと心がかたくなるし、きずつく

掘割の情緒あふれる柳川の城内校区は、地域をあげて子どもたちを育てる活動を行ってきました。しかし、令和2年度は感染症予防のために、そのほとんどが中止となりました。3カ月近くも家の中で過ごす子どもたちを見ると、改めて、学校や地域と連携したPTA活動の大切さを感じました。

そこで、昨年11月に校区内に開館したばかりの柳川市民文化会館「水都やながわ」の視察研修を実施しました。写真。

近隣の中小5校のPTA会員も誘って、施設の内覧を行い、PTAでの活用について話し合いました。地の利を生かし、広い会議室での役員会、合同バザーや発表会等、活用のアイデアが次々と出されました。

また、2月には、地域ボランティアによる「城内見守り隊」への感謝の会を、学校と連携して「感謝ウィーク」とし、子どもたちと地域の方々と交流がより深まる活動へと変えました。登下校中には、元気なあいさつや感謝の声が聞こえています。

今後も厳しい状況が続きますが、「ピンチはチャンス」と考え、創意工夫をしながらい、子どもたちの成長だけでなく、会員の成長や親睦のために活動を進めていきます。

(城内小PTA会長 松岡 尚志)

南筑後



地域と共に 育てる力を

●柳川市城内小

江南小学校の校訓は「至誠一貫く人間としてまごころを貫き通す子ども」です。校歌にある「♪至誠は人を動かして…」の歌詞とおり、会長としてこの2年間、地域の皆さまの、そして、保護者の皆さまのたくさん「真心」を感じました。

何年も江南小を花いっぱいにして下さっているフラワーバンクの皆さん、餅つきやもぐら打ちに関わって下さっている老人会の皆さん、子どもたちの劇「五庄屋物語」などが披露。写真。さらされた、えなみフェスタを企画・運営して下さいる自治協議会など各団体の皆さん、毎年、小隊訓練で

北筑後



チーム江南として子を育てる

●うきは市立江南小

令和2年度はコロナ禍の中、運動会をはじめ各種学校行事や夏祭りなどの地域行事が中止となりました。このような状況下、どのような支援・協力ができるのかPTA理事を中心に、学校と協議の上、子どもたちの健康や学習支援に取り組みしました。

一つは「加湿器」の購入です。冬場の暖房は各教室設置されているものの、加湿が十分にできないとお聞きしました。インフルエンザ対策としても、有効に機能したのではと思います。写真。

二つは、ご存知の通り、子どもたち一人一台のパソコンが配付されました。その活

福岡



子どもたちの健康と学習支援

●糸島市立深江小

子どもたちにかっこいい姿を見せて下さる消防団の皆さん、子どもたちのために進んで活動して下さいる「おやじの会」「家庭教育学級」の皆さん、地域での学習を快く受けて下さる地域の皆さん、見えないところで子どもたちの安全を見守って下さる地域の皆さん。こんなに地域の方が学校を、子どもたちを、大切にして下さる学校で、PTA活動ができることを大変誇りに思います。

これからも、「至誠一貫」の心を持って、教職員の皆さんと一緒に、チーム江南として、子どもたちを育てていきます。

(江南小PTA会長 豊田 淳)

用が進められる中、教室で一斉に使用すると、声が聞き取りづらいとの話を聞き、子ども一人一人にマイク付きイヤホンを購入しました。子どもたちの「聞き取りやすくなった」という声を聞き、本当にうれしく思いました。

例年通りのPTA活動や学校行事などが進められない中、先生や子どもたちにとってどのような支援ができるのか考えていきたいと思ひます。今後も不透明な状況ではありますが、常に「子どもたち」を中心にしたPTA活動を推進していきたいと考えています。

(深江小PTA会長 東山 忠志)

第3回市・町・村代表者会議

バトン・タッチ

反省も苦労もよろこびも



福岡県PTA連合会(県R吉塚駅東口前にある県中P)の令和2年度第3回市・小企業振興センターで開催。町・村代表者会議は3月27日午後、福岡市博多区の市・町・村の代表予定者も参加。新年度へ向けての引き継ぎが行われました。

新年度の事業計画の基本方針案などが説明されたあと、うきは市教育委員会の石井雄児さん(現・千年小教頭)が「うきは市のICT教育」をテーマに講演。写真。映像をまじえながら学校現場でプログラミング学習・算数・音楽などの授業がどのように進められているか紹介しました。

ブロックごとに行われた新旧役員の引き継ぎでは「コロナ禍でPTA活動がほとんどできなかった」「オンライン会議ができてよかった」「PTAはできることをやればいい。スリム化もありうるのでは」などの声が出ていました。

ネット依存によるトラブルが増えています

スマホアンケート調査

マホ」のトラブルの事前防止を目的に単位PTAからアンケート調査を実施しました。前回2014年の調査と比較すると、ネット依存によるトラブルが増えていることが判明。一方、スマホなどに関する保護者向けの研修会や教育啓発活動も増加していることが分かりました。

アンケートへの回答は346校から。スマホなどについての調査を過去3年に行なったことがあると回答したのは223校、一方「ない」の回答も123校に達しました。「研修会・講演会を行った」のは282校でした。

現在の課題や不安については「利用の際のルールを作っても協力してくれない」と「文科省がスマホなどの校内持ち込みを検討していること」「スマホで守りをする家庭が増えないか」などの書き込みがありました。

アンケート調査に当たった安全・調査委員会は「スマホなどに対する課題や不安が山積みであることがわかりました。講習会への講師派遣のあっせんや、他の学校での事例紹介などの情報提供を希望する意見も多かった。今後の県Pの事業に生かしたい」と話しています。

訂正 3月号の「優良PTA文部科学大臣表彰を喜ぶ」の記事の一部に「春日小学校PTA」とあるのは「春日西小学校PTA」の誤りでした。

北九州



地域の皆さん招待し感謝の念

● 中間市立中間東小

中間東小は、全校児童460人と市内では最も大きな小学校です。PTA役員は20人と少ないのですが、いろいろな行事の際には、その都度、保護者の方に手伝いを募って、多くの方々の協力を得ながら子どもたちのために活動しています。

令和2年度はできませんでしたが、東小PTAの代表的な行事の一つに、「給食招待会」写真Ⅱがあります。毎朝、子どもたちの登校を見守ってくださっている地域の方々（通学安全協力員）を学校にご招待して、3年生の子どもたちと一緒に給食を食べていただくというものです。日ごろの

感謝の気持ちを伝えるために行われていました。子どもたちは、地域の方々とうれしそうにおしゃべりをしながら、日ごろの感謝の気持ちを伝えます。地域の方々も、子どもたちと談笑しながら食事をするのを楽しみにしておられ、お互い素敵な時間になっていました。

私たちPTA役員も、一緒にお世話に関わらせていただく中で、地域の方々とお話をしたり、子どもたちの様子を見ながら一緒に給食をいただける機会なので、新型コロナウイルスの終息を待ち望んでいます。

(中間東小PTA会長 中山 慶之)

筑豊



コロナ差別をなくす取り組み

● 大任町立大任中

新型コロナウイルス感染症により、令和2年度は学校も臨時休校となり、これまで私たちが経験したことのない事態のなかで4月がスタートしました。そのような中、報道などによると、医療従事者、新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者とその家族らに対する差別や偏見につながるような行為が見受けられ、社会問題となっています。

そこで、大任町PTA連合会会員は一丸となって差別をしない取り組みを行っている必要性を強く感じ、本町の小中学校PTA役員とも協議を行いました。その結果、

現在の状況下では、町PTAとしても「心を傷つけることのない環境」「復帰しやすい環境」づくりを推進し、万が一、感染した場合でも心穏やかに治療に専念でき、完治したときに安心して生活できる家庭・学校・地域にするために、コロナによる差別をなくすことを宣言し、全家庭に文書を配布しました。

子どもたちも「差別解消に向けて行動したい」と自主的に考え、シトラスリボンプロジェクトにならって啓発ポスターⅡ写真Ⅱを作成し、差別をなくす取り組みを行ってくれたことはうれしい限りです。

(大任中PTA会長 園部 奈緒美)

京 築



生徒・先生のネットワーク

● 行橋市立行橋中

新型コロナウイルス感染症下、行橋中学校では、子どもたちの「喜び」や「感動」を基調に、それを応援していく「PTA活動の維持」を目標に活動してまいりました。年度当初は先生、子どもたち、そして保護者同士の「こころ」の距離が離れないよう、ネットワーク環境を整え、顔の見える関係作りに努めてまいりました。

6月の学校再開時には、感染予防策を徹底した上で、PTA慣例活動である「あいさつ運動」を再開し、その後、制服や体操服の交換を行う「リサイクル活動」を再開しました。感染状況が一時落ち着いた秋ご

ろには、体育大会、文化発表会の代替行事として行われた、スポーツ・フェスティバルやスクール・フェスティバルのリモート中継。JR行橋駅にクルーズトレイン「ななつ星」が停車中には吹奏楽部の演奏や美術部作成のねぶたの紹介などのおもてなし活動Ⅱ写真ⅡもPTA役員のサポートで行い、例年とは違った「喜び」や「感動」を応援しました。

子どもたちの活気あふれる笑顔と「柔軟な発想」は地域の宝です。行橋中のPTA活動は、そのような生徒たちの翼に光を当てられる存在を目指し活動しています。

(行橋中PTA会長 反田 治)

千里眼☆☆地獄耳

(記事募集中＝メールで事務局へどうぞ)

現在の子供たちはたくさん情報に囲まれていると思う。それは、私が子どもの頃と違い、携帯電話が普及しているからだ。その携帯電話は、電話機能からパソコン機能を重視するようになって、あらゆる方面から情報やアイテムを得ることができる。本当に便利な世の中になった。私が子どものころの情報源といえば、テレビかラジオか新聞くらい。一言で表すと時代が変わった。

今では携帯電話を持っているのが当たり前。そして、携帯電話のほとんどがスマホ。昔は一家に一台の固定電話だったが、今では一人一台のスマホが常識に。そして、このスマホが便利なので、コミュニケーションツールやゲームを利用できる。

ただ、良い面だけではないことは言うまでもないだろう。ゲームに熱中し過ぎての課金や、SNSなどのコミュニケーションツールでトラブルになるなど問題は多い。先日、県Pの委員会活動で福岡県内の小中学校を対象に「スマホ等の対応に関するアンケート」を実施した。その中には、実際に何らかのトラブルが発生しているという意見が複数あり他人事ではないと思った。わが家はまた子どもにはケータイを持たせていないが、いつかその問題に直面するかもしれない。保護者としてきちんと準備しておくべきだろう。

(S)

福岡県PTA連合会 小・中学生総合保障制度のお知らせ 安心してお子様をご養育いただくために

「小・中学生総合保障制度(こども総合保険)」

お子様の「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などを補償します。

この制度の詳細内容はこちらからも確認いただけます。

AIG 損害保険株式会社『お子さまのための総合保障制度』<https://riskfinder.jp/school/>

(学校内のケガの場合、「独立行政法人 日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度」の給付とは関係なく補償されます。)

※保障制度の詳細につきましては、取扱代理店にお問い合わせください。

●制度に関するお問合せ先：取扱代理店 株式会社コーリン（福岡県PTA連合会保障制度事務局）

TEL：0120-228-553（通話料無料）（受付時間：平日午前9時～午後5時 土・日・祝日、年末年始を除く）

●制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 Chubb 損害保険株式会社

[令和3年度版：S-210388 (2022-04)]



山際千津枝の

食ぶるってなあに

>103<

私がいつ頃から料理研究家になってしまったのは、母から強引に短大の栄養科に入れられたからです。もちろん今では大感謝なのですが…。授業中は、ボーッと空想しているか教科書以外の本を読んでいるかの落ちこぼれ学生。卒業時に頭に残っているものは皆無。今となっては高い授業料を払ってくれた親に対して謝ることもできません。

先日「先生の料理は薄味でおいしいです」と生徒さん。言われてみて気がついたのですが、外で食事をするとは味が濃すぎて。あとでのどが乾きます。

母は料理上手でしたが煮物などは甘辛く濃い味だったように思います。するとですね…

私の味覚は2年間の学生時代で培われたのかもしれない。そうであるならばボーッと過ごしたあの時間も決して無駄ではなかったということ。それどころか素材の味を感じさせる薄味が身について、私や家族の健康の礎を築いてくれたのです。

皆さんの作る料理の味付けはどうでしょう。もし濃いと思われたら「今からでも味覚は変えることができますよ」と言えるのは私の経験からです。簡単なことから始めましょう。インスタントラーメンなら、指示された分量より水を多く入れます。佃煮や塩辛などは子どもたちには刺激の強過ぎる食べ物だと思ってください。うちの子は酒のつまみのようなものが好きで…なんて自慢げに話す人がいるのは驚きますが…。

食卓の調味料

マンガースの独り言

量より水を多く入れます。佃煮や塩辛などは子どもたちには刺激の強過ぎる食べ物だと思ってください。うちの子は酒のつまみのようなものが好きで…なんて自慢げに話す人がいるのは驚きますが…。

餃子やしゅうまい。下味のついた焼肉にさらにタレをつける。それが当たり前になっていませんか。最近では減塩の行き過ぎが問題にもなっていると言いますが。子どもたちには塩辛さを好む嗜好を身につけさせたくはありません。よその食卓のことはよく分らないのですが…（誰も招いてくれないので）。

昔はこの家庭にもテーブルの上に調味料セットが置かれていましたが今はどうなのでしょう？ 食卓にはちゃんと味付けされた料理が置かれているはず。刺身や冷奴、納豆など食卓での味付けが必要な時にだけ調味料があれば良いのでは。必要もないのに何にでもソースをかける誰かさんのようになっちゃいます。何日も小さな容器に入れてばなしのしょう油は風味が飛んでしまっています。慣れるとそれにも気付かなくなります。

コロナの影響で家庭の中での食事がさらに大切になっています。皆さんの食卓が楽しく健やかであることを祈っています。

初めての6ブロック母親代表研修会



コロナ禍の人権を大切に

福岡県PTA連合会（県P）は、6ブロック母親代表研修会を2月13日午後、福岡市博多区のビジネスホテルで開催。参加者は「コロナ禍、大丈夫ですよ」とのメッセージにもなるシトラスリボン作りのワークショップ。

シトラスリボン作りワークショップも体験しました。写真は、コロナ禍で起こる偏見や差別を耳にした愛媛県松山市の市民団体が始めました。シトラスは「かんきつをイメージした色」で、紙テープやひもなどのリボンで地域・家庭・職場学校を意味する3つの輪を作り、それを身に着けたり、玄関などに掲示します。もし感染した人がいても過剰に怖がったり差別したりせず、「ただいま」「おかえり」と迎えらる地域でありたい、この思いが、かんきつの色に込められています。



シトラスリボン

シトラスリボン作り
チャレンジしました

会は「コロナ禍、母親として地域の現状を見つめ直す機会として、人権問題に関する講話・実践講習を行い、母親代表者会内のスキルアップ・モチベーションアップを図り、PTA活動につなげたい」と、初めて開催されました。冒頭、松尾和昭・県P会長は「コロナ禍、ふだんの生活から正しい情報、知識が必要」とあいさつ。古賀市立花見小学校PTAの小石原美紀さんが、かんきつの産地・松山で誕生したシトラスリボンの意義を説明、作り方を指導しました。

広報委員のひとりごと

「与える法則、GIVEの精神」というのがあります。情報があふれていて、なかなか届かなかったり、見つけれなかったりした時に自分とつながってる人へ必要と思った情報を自己中心的利他の精神で一方向的に流します。先日は、あるグループへ流したところ「グループの主旨が違うから即刻削除を」とおしかりを受けました。届く人へ届けば良いので気にすることもありませんでしたが、おしかりをされる方は心配です。正義感持って言った正しさは、時には万人共通の答えとはならないからです。情報に助かる人もいれば邪魔だと言う人もいますので、情報の精査は自分基準が大事です。大人が他人軸ではなく自分軸で生きられるようになれば、批判ではなく承認しあえる空間ができて、ゆくゆくは子どもたちが大人の顔色を気にすることなく遊び回れると勝手に思っています。



福岡県PTA連合会（県P）のPTA新聞は、スマホやパソコンなどから県Pのホームページへアクセスし「PTA新聞」をクリックすると過去2年間分を閲覧することができます。

スマホからも県P新聞
読むことができます